

いつもどおり

山形県立左沢高等学校 三年 鈴木 柚奈

農業の授業の「草花」という科目で、楯岡特別支援学校大江校へ行き、花植え交流をしました。活動内容は、私達左沢高校の生徒が、支援学校の生徒に花の植え方を教え、一緒に花壇に花を植えるというものでした。

支援学校は高校一年生から高校三年生の生徒がいるので、私達は三チームに分かれました。私は三年生の担当になりました。同い年と言っても、支援学校の生徒は障害を持っていたので、話し方や接し方を変えた方がいいのか、しっかり会話ができるのか不安でいっぱいでした。当日になっても不安は消えず、緊張したままバスに乗り、支援学校へ向かいました。支援学校に着くと、生徒達が出迎えてくれました。花植えをする前に、全体でお互いの学級紹介や学年ごとに分かれて自己紹介をしました。自己紹介では、学年ごとに丸くなって、自分の名前と好きなもの・ことを言いました。先に支援学校の生徒から自己紹介をしたのですが、大きな声ではきはきとしている生徒もいれば、その場から離れて行ってしまう生徒もいました。この様子を見て、ひとくちに特別支援学校の生徒といっても一人一人が違って、それぞれに個性があると思いました。私は、支援学校の生徒が聞きやすいように、きはきと声を張って自己紹介をしました。私の話を聞きながら、頷いてくれる生徒もいました。次に、花植えの説明をしてから、花壇にマリーゴールドの花を植えました。左沢高校の生徒一人に対し、支援学校の生徒二人を担当しました。花植えの説明をする時は、ゆっくりと一つ一つの動作を実践しながら行いました。支援学校の生徒がポットに入っている花を取り出すのに少し手こずってしまった時は、口で説明しながら実際にやってみせたり、手

伝いをしたりしました。花を植えた後に、支援学校の生徒から「これでいいですか。」と聞いてきてくれることもありました。支援学校の生徒から質問をされるとは思っていなかったのに、驚きました。ある程度慣れてきて作業もスムーズに進み、花壇に花を植え終わりました。その後は、担当した学年ごとに分かれて、左沢高校の生徒と支援学校の生徒で写真撮影をしました。写真撮影が終わって左沢高校の三年生担当の生徒で集まっていたら、支援学校の生徒から「好きなアーティストはいますか。」「おすすめのアニメはありますか。」と質問をしてきてくれました。私達はその質問に答えて、支援学校の生徒と楽しく会話をすることが出来ました。私は自分からコミュニケーションを取らなければ何も話せないかもしれないと思っていたのですが、支援学校の生徒から話しかけてきてくれたことで、私もたくさんコミュニケーションを取ることが出来ました。活動が終わる頃には、不安や緊張はなくなっていました。

花植え交流を通して、私は、相手が障害者だからといって、話し方や接し方を変えたり、しっかり会話をする事ができるのかと深く考えすぎたりせずに、普段友達と話している時と同じように、いつも通りに接することが大切だと学びました。今後、社会に出てから障害者の方と交流する機会があったら、見た目やイメージにとらわれずに、いつも通りを意識したいです。